






5歳児青組(男児12名 女児18名) 指導計画案①

令和2年2月10日(月)～14日(金)

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 小学校体験で得た技や出会った物を園生活に取り込み、さらなる挑戦や友達の関係の深まりを目ざしていく。修了までの限られた日々の間でも、精一杯活動していく中で、成長した自分を実感し、喜びを感じる。 		
時程	主な活動	願う子どもの姿(経験)	援助の留意点
8:30～ 11:00	なわとび  <small>小学生みたいにやってみよう</small>  <small>小学校の先生が来て一緒に二重跳び</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達が挑戦している姿や保育者の存在をきっかけに、「自分もできるようになりたい」と思って、様々な技に挑戦していく。 ○ なかなかできるようにならない自分も前向きに受け入れ、何度も挑戦することを楽しさを感じる。 ○ 繰り返しやる中で、縄に入るタイミングや跳ぶタイミング、体の使い方などのコツを習得していく過程に、充実感を感じる。 ○ 友達の挑戦を応援し、頑張りや成功を自分事のように喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技の習得や回数が増えることだけに目を向けず、失敗を受け入れたり、はね飛ばしたり、笑い飛ばしたりしながら何度もやろうとする姿を喜び、その喜びを表現する。 ・ 2年生とやってみた8の字跳びや一斉跳びに向かう子どもたちには、保育者の励ましこそが大切だろう。まずは精一杯応援し、時に自分も跳ぶ側に立って、跳び方のコツを習得していく仲間として存在する。
2/14(金)のみ	学校ごっこ  <small>勉強中 邪魔しないで!</small> J o h n先生とのお別れに向けて  <small>お別れパーティー</small>  <small>John先生、是非ガチャポンやって</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 役や教室の環境、ごっこのストーリーなどを自分たちで決め、実現させていく中で、友達とともに過ごす楽しさを存分に味わう。 ○ 自分のやりたいことやアイデアを言葉で伝えるとともに、友達の言葉にも耳を傾け、そのよさを受け止める。 ○ 前日の話し合いの中で感じたJ o h n先生への感謝やお別れの寂しさを自分なりに表現する。 ○ 「J o h n先生との活動の終了」と「自分の修了の接近」との関係を感じ、精一杯過ごそうとする。 ○ どうすればJ o h n先生が喜んでくれるか、また自分たちも楽しめるかを考え、友達と伝え合いながら形にしていく。 ○ 「やってみよう」ことを形にしていく中で、常に思考を巡らせることや学級の一員として役割を果たすことの充実感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校ごっこの役になって加わる。役を演じる中で浮かんだアイデアやイメージを積極的に言葉にし、ごっこにリアル感が増していく過程を楽しんでいく。 ・ 生徒役になった時には、小学校生活を楽しむモデルとなるよう、書いたり、考えたり、発表したり、聞いたりすることに懸命に取り組む。 ・ 子ども達から生まれた「～したい」「こうしたい」思いを、実現していくことをあきらめない。 ・ 子どもの思いの実現に難しさを感じた時も、決して「だめ」「できない」と言わず、「～ならできそう」と提案していく。 ・ 時間がかかったり、出来映えに期待がもてなかったり、危険を感じたり等、心配な場面では、できる限り間接的に、かつ温かくかかわり、子ども達が「自分たちの力でできた」と満足感を得られるようにする。

5歳児青組(男児12名 女児18名) 指導計画案②「赤組(年中)さんに青組(年長)の思い出を絵で伝えよう」

○ 活動について・・・本園では、日常より、自然に異年齢の子ども達の関わりが生まれる保育を展開している。と同時に、園外保育や小学校のプール、中学校で行われる運動会、またカレーライスパーティーやおでんパーティーなどの園行事において、年長児と年中・少児がより深く関わり、頼られる嬉しさや憧れを感じたりすることを願って、ペアでの関わりを援助している。2月下旬、年長児は、卒園記念品を作成したり、修了式に向けての活動に取り組んだりする中で、園生活の修了を感じていく。やがて慣れ親しんだ保育室を去ることを実感した子供たちは、寂しさとともに、園での経験を糧に、新しい小学校に向かう自分と、この保育室を譲り受ける年中児の姿を重ね、伝えたい事柄が生まれてくるだろう。

そこで、「年下のペアの友達へのメッセージを描く中で、これまで過ごした園生活を振り返り、楽しかったことや自分の変容に気づき、年中児を応援する気持ちや、残りの生活への意欲をもつ」ことをねらいとし、実施する。

時程	主な活動	願う子どもの姿(経験)	援助の留意点
10:40	1 片岡先生と出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の先生を喜んで保育室に招き入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ④参観者としてではなく、共に活動する一員として参加する。 ④活動を通して、できるかできないか等幼児の表面的な姿ではなく、学級で過ごしたり、友達と伝え合ったり、描いたりするよさを感じている過程を見ていく。 ・前日に活動の見通しを知らせておくことで、楽しみにしながら集まって来られるようにする。 ・自分で準備できるように、ホワイトボードに準備物を写真で示すなどし、T児には直接声をかけていく。 ・一人一人が伸び伸びと活動できることと、友達のよさに触れられることが両立するよう、テーブルの数を子供の様子から判断し、準備する。 ・園外保育や運動会、おでんパーティー等で、年中児と笑顔で関わっていたり、反対に戸惑っていたりする写真を見せながら、あの時の自分の姿や感情に愛着を感じられるようにする ・子供たちなりの表現を、全て大切に受け止め、それを返していく。 ・もう一枚描きたいと思う子供がいれば、その思いの表出を心から喜び、充分保障する。 ・台紙を何種類か準備し、選択できるようにすることで、壁面の自分のカードに関心をもてるようにする。 ・子供たちとカードを眺めたり、メッセージを読んだりしながら、年中児が年長児となってこの保育室に来た時、「きっと喜んでくれるだろう」と、共に楽しみを共有する。 ④活動の中で見た幼児の喜んで表現する姿や友達と認め合う姿等、これからの学校教育において基盤となる姿を、具体的に評価する。
	2 活動のおおまかな内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみんなでの活動を楽しみにしながら、自分なりに準備をする。 	
	3 ペアの友達へのメッセージを描く	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足や運動会、おでんパーティーなどでお世話したり、一緒に楽しさを共有したりした経験を想起しながら、ペアの友達に伝えたいことを絵や文で、自分なりに喜んで表現していく。 ・傍にいる友達の表現のよさに気づき、影響を受けながら、さらに描きたいものやイメージをもつ。 ・描きたいことやイメージを表現していくことの面白さを感じる。 ・友達とともに活動すること、さらにはクラスのみんなで活動することの楽しさを感じる。 	
	4 壁面に飾る	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみんなのカードが飾られた壁面を見ながら、自分のカードがその中の一つとして存在していることへの誇らしさや、一つ一つが集まるとさらに大きなパワーを生む不思議さなど、様々な感情をもつ。 	
11:10	5 小学校の先生の話聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の先生から認められた自分たちの姿をさらに伸ばしていきたいと意欲をもつとともに、小学校生活での期待をもつ。 	

5歳児青組(男児12名 女児18名) 指導計画案③「校園長先生からプレゼントが届いたよ！絵を描いて思い出の鉛筆立てにしよう」

○ ねらい・・・自分の育ちの過程や姿を小学校の先生から認めてもらう体験を通して、人生の節目に立つ自分に自信をもち、これからも精一杯伸びていこうという気持ちをもつ。

時程	主な活動	願う子どもの姿(経験)	援助の留意点
10:40	1 好井先生を招く。	・小学校体験と一緒に算数をしたり、縄跳びをしたりした好井先生との再会を心から喜び、はりきって活動しようとする。	④園児と一緒に活動することや、校(園)長先生からの届け物を渡すことを楽しみにしている気持ちを、体いっぱい表現する。 ④活動を通して、園児が学級で過ごしたり、友達と伝え合ったり、描いたりするよさを感じている過程を見ていく。
	2 卒園記念品を作る。	・小学校の校長先生(園長兼務)から贈られた記念品に、自分のこれまでの成長の評価や今後の期待が込められていると感じ、残りの園生活やこれからの小学校生活に、さらに前向きになる。 ・園生活の思い出や小学校生活で頑張りたいことを、絵や文で自分なりに喜んで表現していく。 ・傍にいる友達の表現のよさに気付き、影響を受けながら、さらに描きたいものやイメージをもつ。 ・描きたいことやイメージを表現していくことの面白さを感じる。 ・友達とともに活動すること、さらにはクラスのみんなで活動することの楽しさを感じる。	・前日から、好井先生の訪問を知らせておくことで、楽しみにしながら集まって来られるようにする。 ・一人一人が伸び伸びと活動できることと、友達のよさに触れられることが両立するよう、テーブルの数を子供の様子から判断し、準備する。 ・小学校体験で真剣に授業を受けたり、給食をおいしくいただけたり、小学生と仲良くできたりしたことを見て、小学校の先生方が新一年生を心待ちにしていることを、園の一員として共に喜ぶ。 ・教師が描いたものを見せ、その表現の意図や思いを伝えることで、子ども一人一人の思いを引き出していく。 ・子供たちなりの表現と思いを全て大切に受け止め、それを返していく。 ・もう一枚描きたいと思う子供がいれば、その思いの表出を心から喜び、充分保障する。
11:15	3 小学校の先生の話聞く。	・絵本「おおきくなるっていうことは(中川ひろたか 童心社)」を聞き、小学校の先生から認められた自分の育ちや今の姿を底力に、小学校で頑張ろうという気持ちをもつ。	④先日の来園の折に見た園児の自発的な姿や粘り強く取り組む姿や、今日の活動の中で見た喜んで表現する姿や友達と認め合う姿等、これからの学校教育において基盤となる姿を、具体的に評価する。

5歳児 指導計画案「近隣の幼、保、子ども園への出前授業案」

○ ねらい・・・小学校の先生と出会い、共に活動することを通して、小学校教諭に親しみ、小学校生活へ期待をもつ。

時程	主な活動	願う子どもの姿（経験）	援助の留意点
1	小学校の先生と出会う。	・園の先生が自分たちの育ちを心から喜び、小学校の先生に知らせてくれたいきさつを知り、はりきって活動しようとする。	㊤前日から、小学校の先生の訪問を知らせておくことで、出会いを楽しみに感じられるようにする。 ㊤自己紹介の中で、園児と一緒に活動することを楽しみにしてやって来たことを、体いっぱい表現する。
2	絵本を聞く。	・絵本「かぶとむしランドセル(おおのこうへい PHP)」を聞き、小学校の先生の温かい雰囲気を感じることを通して、入学に安心感をもつ。	㊤活動を通して、園児が喜んでクラスで過ごしたり、友達と伝え合ったりしている過程を見ていく。 ㊤一人一人が伸び伸びと活動できることと、友達のよさに触れられることが両立するよう、テーブルの数を子供の様子から判断し、準備する。
3	ノート(プレゼント)を受け取り、使ってみる。	・小学校の校長先生から贈られたノートに、小学校の期待が込められていると感じ、残りの園生活やこれからの小学校生活にさらに前向きになる。 ・園生活の思い出や小学校生活で頑張りたいことを、ことばで自分なりに喜んで表現していく。 ・傍にいる友達の表現のよさに気づき、影響を受けながら意欲を高め、どんどん書いていく。 ・友達と高め合ったり、表現したりすることの面白さを感じる。	○今日の小学校体験で味わう楽しさが、入学後の子ども達の意欲や主体性、安心感につながることを信じ、終始、丁寧にかかわっていく。 ○子供たちなりの表現と想いを全て大切に受け止め「～だから○○とかいたんだね」「○○を楽しみにしているんだね」などと返していく。 ○「何度も書きたい」「たくさん書きたい」と思う園児には、その思いの表出を心から喜び、充分保障する。 ㊤今日の活動の中で見た、園児の自発的な姿や粘り強く取り組む姿、喜んで表現する姿や友達と認め合う姿等、これからの学校教育において基盤となる姿を具体的に評価する。
4	終わりの挨拶をする。	・楽しさや小学校の先生に認められた嬉しさが自信となり、小学校の先生との別れを自分なりにきちんとしようとする。	○子ども自信が、返事や挙手等の態度や姿勢のよさに出た瞬間を見逃さず、終業の号令等、小学校文化の主体的な体験へつなげていく。

